


都道府県番号	10
都道府県名	群馬県

【  
  
 】

\*重点をおいた観点にチェックすること

学校名及び規模

学校名	吾妻町立岩島中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	1	7	16
生徒数	44	43	44	1	132	

研究の概要

(1) 研究主題

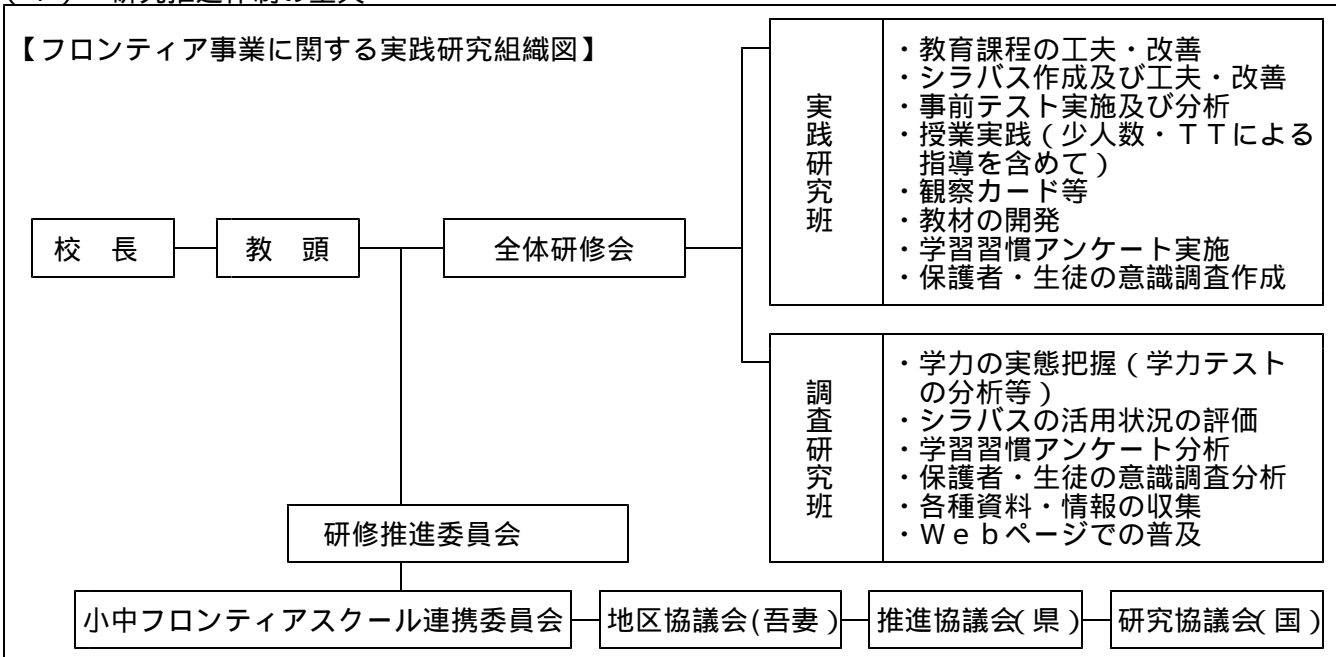
「進んで学習に取り組もうとする生徒の育成～個に応じたきめ細かな指導を通して」

(2) 研究主題設定の趣旨

協力的な学習指導やシラバス(学習案内)を活用した学習指導を工夫・改善していくことにより、基礎的・基本的な学習内容の定着を図り、生徒が見通しをもった学習活動を進めることができようし、進んで学習に取り組もうとする生徒の育成を図る。

研究の概要(選択した観点を中心に記述すること)

(1) 研究推進体制の工夫



(2) 研究の実際

「個に応じたきめ細かな指導」について

本校においては、学校の全教育活動を通して、個に応じたきめ細かな指導を推進していく。指導に当たっては生徒の実態を把握し、一人一人の学習における特性や課題をふまえた学習指導の展開を工夫していく。数学科、英語科においては、TTによる指導・少人数指導を推進するとともに他の教科においても、補充的・発展的な学習を通して基礎的・基本的な学習内容の定着、個性を伸ばす・生かす指導の展開も工夫していく。

以下に数学科、英語科における取組を示す。

<数学科>

第1学年(1クラス22名、2クラス)ではTTによる指導を行い、第2・3学年(1クラス21～22

名、4クラス)では少人数指導及びT Tによる指導を行う。

第1、2学年のT Tによる指導においては、主にT 1が授業を進め適宜個別指導を行う。T 2は観察、評価と個別指導を行う。生徒は2人の教師(第2学年は3人の教師)に支援してもらったり、がんばりの様子を認めてもらったりできる。そのため、学習が効率よく進むだけでなく、満足感をより感じることができると考えられる。また、個別学習(問題演習)の段階では、生徒のつまずきの原因を的確に把握し個に応じた指導を行う。そして、生徒はつまずきの原因を速やかに理解できるため、意欲を損なうことなく、自ら問題解決していこうとする態度が身に付くと考えられる。

また、シラバスを活用したガイダンスを行うとともに、事前アンケートやテスト、T Tによる指導の中で生徒の実態を的確に把握し、第2、3学年においては単元によって習熟度に応じた少人数指導を行っていく。習熟度別の集団で学習を行うことで、その集団に応じた授業展開や課題設定をすることができるため、基礎コースの生徒は安心してじっくり自己課題に合った問題に取り組むことができ、自分の力で解決しようという意欲が高められる。そして、自分の力で解いたという満足感から意欲が高まり、それが次の学習への意欲へつなげるものとする。

さらに、少人数指導やT Tによる指導の中でも意図的に生徒同士の学び合いの時間や場を設定し、お互いに高め合う場面をつくっていく。そして友達との交流を通して自己課題が明らかになるとともに、その解決に向け、友達から学んだり、友達に教えたりすることによって両者共に課題についての理解が深まるものとする。

#### <英語科>

第1学年(1クラス22名、2クラス)ではT Tによる指導を行い、第2・3学年(1クラス21~22名、4クラス)では少人数指導及びT Tによる指導を行う。

T Tによる指導においては、T 2がつまずきの見られる生徒を中心に支援することで、英語の学習や読むことに苦手意識を抱いている生徒も自信をもって表現できるようになると考えられる。また、短時間で十分表現できるようになった生徒にはより工夫した表現を促したり、表現に変化を付けてみるよう助言したり、発展的な学習に取り組みせたりすることにより、学習意欲を高めていくものとする。

また、シラバスを活用したガイダンスを行い、事前アンケートや、テストなどの結果を考慮し、第2、3学年においては単元に応じて少人数指導(習熟度や興味・関心に応じた)を行っていく。習熟度に応じたコース別の集団で学習を行うことで、その集団に応じた授業展開や課題設定をすることができる。そして、基礎コースの生徒は「聞く・話す・読む」活動を繰り返し丁寧に学習するため、ゆとりをもって考え自信をもって発言することができ、学習意欲はより高まるものとする。応用コースでは、速いテンポで学習を進め、基本的な活動に加えてスピーチ作りや、コミュニケーション活動に時間をかけるようにする。そのことにより英語を得意とする生徒の知的好奇心はより旺盛になり、ねばり強く意欲をもって取り組めるものとする。

「個に応じた指導のための教材開発」について

本研修では、少人数指導の充実を図るため、シラバスを導入することとした。以下、その基本的な考え方を示す。

#### ア 「シラバス(学習案内)」について

「シラバス(syllabus)の一般的定義については、広辞苑(第五版)によると「講義実施要項」「講義内容・達成課題・使用テキスト・参考文献・テスト方法などについて記した計画書」とある。本校におけるシラバスは次の3つとする。

「学習内容一覧(大シラバス)」……各教科において中学校3年間の学習の流れが分かるもの。

「年間学習計画(中シラバス)」……1年間の学習の見通しが立つもの。

「単元学習計画(小シラバス)」……単元において身に付ける基礎的・基本的な学習内容が分かるもの。単元や単位時間の学習目標や学習内容が分かり、自己評価できるもの。

- イ 本校がシラバスの研究開発に取り組んでいる理由について  
 生徒は、学習目標や学習内容を理解し、見通しをもった学習ができるので、学習に対する興味・関心を高め、積極的に授業へ参加するなど学習意欲を向上させるであろうと考えられるため。  
 少人数指導の際に、あらかじめ学習内容が提示されることで、生徒は、学習コースの選択が容易になり、学習コースの選択や変更の不安が解消されるため、進んで学習に取り組む意欲を喚起するであろうと考えられるため。  
 生徒は、1単位時間の学習目標の達成が確認できたり、学習目標が達成できなかったときの課題が明確にできたりするので、学習意欲を持続するであろうと考えられるため。  
 生徒は、1単位時間及び1単元の学習内容を終えた後、学習目標を達成できたという成就感を味わい、次の学習に対する学習意欲の向上が図れるであろうと考えられるため。

以上より、本校ではシラバスを次のような方向性から開発していきたいと考える。

- 学習に対する興味・関心がわき、自分が何を頑張ればよいのかが分かるもの。(意欲の喚起)  
 自分が今学習していることが何につながるか確認できるもの。(意欲の持続)  
 自分の学習の振り返りができ、次の学習の意欲へとつながるもの。(意欲の向上)

### (3) 研究の成果と課題

#### 研究の成果

ア 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫(数学科及び英語科における協力的な学習指導)

##### <数学科>

- ・1学級を習熟度別に3グループ編成(A:基本コース、B:苦手克服コース、C:ステップアップコース)とし、Aコースに指導者1名、B・Cコースに指導者1名(第2学年では各コース指導者各1名)という指導形態をとった。B・Cコースでは生徒の助け合い学習に重点を置き、指導者1名が支援を行った。この結果、学習内容の習得、苦手意識の克服、学習意欲の向上等が図られた。

第2学年 教研式学力診断テスト偏差値平均 47.2 (H14.7) 49.8 (H15.5)

第3学年 教研式学力診断テスト偏差値平均 51.7 (H14.5) 53.4 (H15.5)

##### <英語科>

- ・題材や学習内容に応じて、生徒の希望によって分けたコース別の少人数指導を行った。《ステディコース》では、教科書の本文を読むことや基本的な語句・文型の繰り返しにより多く、《アドバンスコース》では、英語によるコミュニケーション活動に、より多くの時間を割いて授業を進めた。両者の間に差別意識や不安感を生じないように、題材の導入とまとめ、ALTとの協同授業では、合同の学習形態をとった。活動に使うワークシートなどについては基本的な形は同じとし、難易度や活動量を変えて作成した。その結果、生徒は自分のペースで学習を行うことができ、学習内容の習得、ねばり強い学習態度の育成が図られた。

第2学年 教研式学力診断テスト 平成14年度未実施のため省略

第3学年 教研式学力診断テスト偏差値平均 51.5 (H14.5) 56.8 (H15.5)

#### イ 個に応じた指導のための教材開発(シラバスの開発)

数学科、英語科において、単元毎のシラバス(学習案内)を作成し、その活用方法・場面の研究及び工夫・改善を行った。単元の導入時にシラバスを配り、学習のねらいや内容を確認させた。また、時間や単元の終わりにシラバスにより自己評価をさせた。生徒は学習の見通しが付いたり、自己の学習の様子を振り返ることができたりするため、家庭で予習・復習に取り組むなど、学習に対して意欲的に取り組める生徒が多くなった。

今後の課題

ア 少人数指導とTTによる指導それぞれの長所を生かした指導方法の工夫・改善を図っていく。  
イ 生徒によるシラバスの活用状況や自己評価を分析し、生徒がどのような場面で、どのようにシラバスを活用できるようにするとよいか検討を加えるとともに、生徒がより活用しやすい内容(形式)に整えていく。

(4) 研究成果の普及の方策

- ・ 授業公開
- ・ 学校通信「しのめ」の発行
- ・ 公式「Webページ」の開設(www.iwashima-jhs.gsn.ed.jp)
- ・ 吾妻町教育研究所研究発表会及び「研究紀要第38集」における発表

(5) その他(その他特色ある取組等がある場合に記述)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校

【学校規模】             3学級以下                       4～6学級  
                               7～9学級                       10～12学級  
                               13～15学級                   16学級以上

【指導体制】             少人数指導                       T・Tによる指導  
                               その他

【研究教科】             国語             社会             数学             理科  
                               外国語         音楽             美術             技術・家庭  
                               保健体育     その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有       無

【特色ある取組事例として紹介したいポイント(都道府県教育委員会記入)】

数学科・英語科において単元に応じた少人数指導やTTの学習形態を取るとともに、個に応じたきめ細かな指導として習熟の程度に応じた指導や、学び合い、補充・発展的な指導を取り入れた取組である。

3年間、1年間、単元毎のシラバス(学習案内)を開発・活用し、生徒の学習に対する意欲の喚起・持続・向上を目指した取組である。